

1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0870300795		
法人名	医療法人社団 青州会		
事業所名	グループホーム 寄居		
所在地	茨城県神立町前原443-5 (電話) 029-833-2070		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年2月28日	評価確定日	平成21年6月3日

【情報提供票より】(平成 21年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 24 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 23.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり1300 円		

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	2 名	要介護2	12 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	2 名		
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 青州会 神立病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは広い敷地の中に平屋の3ユニットの設置となっており、周りは木々が多く静かで環境豊かな場所である。ホーム内は入居者と職員の笑い声が絶えず、明るく和やかな雰囲気が窺えた。入居者はこれまでの生活用品のある部屋で思い思い自由に自分の時間を楽しんでいる。職員は入居者一人ひとりの個性を活かし、「暮らし」を大切に考えながら支援している。管理者を含め、職員全員で一丸となりそれぞれの入居者に合ったケアサービスの向上に向けて日々取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム独自の看取りの指針やこれまでの看取りの事例を基に、重度化や終末期に向けたマニュアルの作成に取り組まれていた。今後も職員と話し合いながらマニュアルを活用し全員で検討しながらサービスに役立てられることが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を受けるにあたり、職員全員で意見を出し合い、各ユニットごとにまとめられている。第三者の意見をこれまでの振り返りとして、自己評価への取り組みと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議での議題を毎回生活に密着したものをと考え、各メンバーから意見を大切に捉え行われている。会議の内容は議事録にきちんと残されており、メンバーにも後日議事録が配布されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時やモニタリングなどの説明時に家族から意見や要望を聞き、それらを文章化したものを職員間で共有、把握に努めている。家族から苦情があった場合には対策や改善策を明確にし、フィードバックできるような体制が整っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム立地場所と地域という点において少々難しい部分もあるが、自治会に入会し、交流の機会が多く持てるように活動されている。町内会の子供みこしの訪問やボランティアの導入など取り入れている。介護交流会の開催をし、地域の方にも参加してもらえるよう努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者・家族・地域・職員の4つの柱を立て、それらを基に地域密着型に則した理念を各ユニットごとに職員から意見を活かし独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所内に掲示し、意識づけをしている。また、各ユニットごとに理念から具体的な目標を立て、ケアの中に取り入れ、実現できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、市報の閲覧、町内会の子供みこしの訪問やコミュニティ広場へのお誘いを受け、地域との交流に努めている。		現状として、当ホームの立地からは、地域との交流に厳しい面もあるが、今後も更に地域に向けてホームからの発信を継続され、今後も地域とのさらなる繋がりに期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット会議を開催、職員から意見を集め自己評価の作成に至っている。外部評価の意義については第三者の視点や考えをこれからのケアサービスへの活かせるよう、また日々の介護の振り返りとして職員は捉え常に考えている。改善点に向けて、会議や申し送りを通して職員間での共有を図り、最善を尽くし取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーには会議開催案内、議題の通知を行い、ホームの取り組みやメンバーからの様々な意見や情報交換を行っている。また、家族や民生委員などの参加を求め、生活に密着した内容となっており、日々のケアサービスに活かせるよう努めている。		

茨城県 グループホーム寄居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	土浦市の地域密着型サービス連絡会に参加し意見を聞く機会を設けている。行政とは運営に関しての意見をもらいながら質の向上に向けて取り組んでいる。当ホームの法人事務局も市町村との連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カンファレンスでの報告を面会時に説明しサインももらっている。利用者の状況が変わったときにも同じく面会時や電話で報告もしている。遠方の家族には今後郵送での報告を行う予定となっている。		ホーム側と家族側との思いや考えが食い違うことのないよう、これからも両者との連絡を取り合いながら継続されることが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームと家族が集まり、意見交換の場を設けている。意見や苦情があった場合には改善策を考え、過程や結果を家族に報告をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時には入居者に説明や挨拶などをその都度実施。職員間では同じケアができるように統一を図り、混乱がないように考慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修参加に関しての年間計画を立て、参加できるよう対応している。研修後には伝達研修を開催し、意見交換や知識の共有に努め、専門知識を得たり、職員のモチベーションを高ながら進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な介護交流会を開催し、近隣の施設への参加を求め交流が保てるように活動している。今後は他施設への見学も考えており、ケアサービスに活かしたり、家族への報告をしていく取り組みである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人のホーム見学、自宅へ出向き顔馴染みの関係作りを行うなどしている。体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は昔からの習慣や生活の知恵など聞いたり、教わったりしながら、共に支えあう関係作り推し進めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを重視している。日々の会話やコミュニケーションから得た一人ひとりの思いや情報などを記録し、職員同士共有できるようにされている。各会議などで、一人ひとりであった「少しの手助け」とは何かについて話し合い利用者の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人からの情報や意見を基にユニット会議で話し合い、アセスメント・モニタリングを反映させながら介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを行ったうえで会議を通して見直しがされている。毎日の申し送りの際には介護計画の課題やサービス内容の話し合いを実施し、現状に即したもとのとしている。計画担当者と家族との話し合いの機会も整っている。		

茨城県 グループホーム寄居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院や居宅支援事業所との連携をとり、他施設の紹介を行う事もある。入居者の受診付き添いや法人内の保育所との交流もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時などに本人や家族の希望を聞きかかりつけ医への受診は可能となっている。受診の際には入居者の最近の様子や職員の気になっていることなどをメモし、医師に報告している。結果は家族に報告、ホーム側にも情報を共有し、連携に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りや重度化した場合のことについて、ホームの方針を家族にきちんと説明し、同意書を得ている。また、マニュアルの準備もされている。家族には状況にもよるが、重度化されることについて早い段階から話し合いが行える体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム内での写真の掲示に関して、本人の許可や承諾書を得ており、記録物の保管場所も一定の場所にきちんと保管されている。職員は言葉使いや立ち位置などの配慮に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活基本パターンはあるものの、入居者のペースに合わせることを基本としている。各種行事の参加やその日の過ごし方など、入居者の意思を大切に考えている。夕食前の晩酌や喫煙などこれまでの習慣に沿った支援もされている。		

茨城県 グループホーム寄居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたい物、作りたい物など希望を聞きながら、食事が楽しみの一つになるように考慮している。食事の一連の作る過程も楽しみの一つと考え職員は支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のこれまでの習慣にあわせ、希望に近い時間での入浴支援としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴や性格など活かし、得意・不得意を見極め日々過ごせるように様々な場面作りをしている。趣味の継続や現在までの職業なども役割や喜びとなるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を聞き、散歩したり、ドライブ、買い物に出かけている。希望はなるべくその日に実施できるように職員は対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらず、夜間のみ、防犯上施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携をとり、定期的な訓練を実施、夜間を想定した訓練も行われている。災害について伝言ダイヤルが活用できるように取り組んでいる。敷地内にある同法人事業所には災害時に備えた備蓄品が整っている。		ホーム内にも非常持ち出し用品や飲料水などある程度の備蓄品の用意について、早めの検討が期待される。

茨城県 グループホーム寄居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者よりバランスの取れた食事を提供しており、水分や食事摂取量のチェックを行っている。一人ひとりに合った健康面の支援が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華美ではない、季節感が感じられる装飾や、気軽に一休みできるソファが設置されており、居心地良く過ごせる共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の個性が窺える場所となっている。使い慣れた物を使用でき、自由に、好きなように過ごされている様子が感じられたものとなっていた。		